

リスク・コミュニケーション チェックリスト

目的：関係者間の相互理解（できれば同意を得る）

方法：講演会と意見交換会

問題点

1) 情報の共有

- ・情報の開示は十分か
- ・科学的な説明は十分か（偽科学情報の排除）
- ・情報の信頼性は高いのか（情報リテラシー）

2) 方法論の理解

- ・リスク分析法の理解は十分か（ゼロリスク回帰志向からの脱却）
- ・ $R(\text{リスク}) = H(\text{ハザード}) \times C(\text{チャンス})$ の「C」を正当に評価しているか（この点が常に意見交換の焦点）
- ・リスク評価・管理上の「分からない点」と、科学的興味としての「分からない点」を区別しているか（食品安全委員会自身の問題でもある）

3) 意見交換会（講演会）

- ・理解しやすい説明ができる講演者を選んでいるか
- ・知識があり、問題を十分に理解している司会者を選んでいるのか
- ・「同意」を得られなくても「理解」が得ることを目標として提示し、会を進行しているか
- ・出席する「関係者」の人選は適切か（組織の立場のみを主張する（せざるを得ない）人だけを選んではないか）
- ・単なる「説明会」あるいは「意見表明の会」に終わっていないか
- ・十分な反論の機会（時間・会議の回数）がある意見交換になっているか
- ・発言予定者の数に応じた討論時間を確保しているか（発言予定者が多すぎないか）
- ・「タテマエ」だけでなく、本気の議論ができたか
- ・発言しにくい立場への配慮はあるか（企業名を出しての発言を控える例が多い）
- ・評価機関と管理機関の縦割りを利用した責任回避という印象を与えていないか

課題

- ・明確な対立関係にある関係者間の意見交換のあり方は
- ・サイレントマジョリティーの意見の把握（聴かれて出てくる不安：アンケートのとり方）

4) 広報

- ・常に正しい情報を広めることに務めているか
- ・間違った風説を適切に訂正する広報を行っているか
- ・広い視野に立った広報を行っているか（BSE、遺伝子組換え、鳥インフルエンザ、食中毒などの個々の問題だけでなく、多くの問題を総括的に網羅し、そのリスクを比較検討した広報）
- ・メディアに対する広報、説明、解説は十分か